

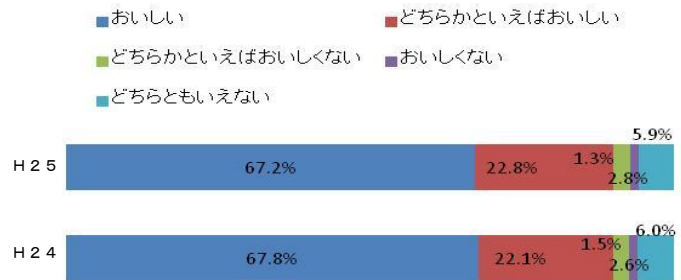
6 対象・設問別結果

① 児童生徒対象

問1 学校の給食は、おいしいですか。

「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答した児童・生徒が90.0%であった。昨年度の89.9%から微増し、今後も引き続き、おいしい学校給食の提供を目指していくことが大事である。

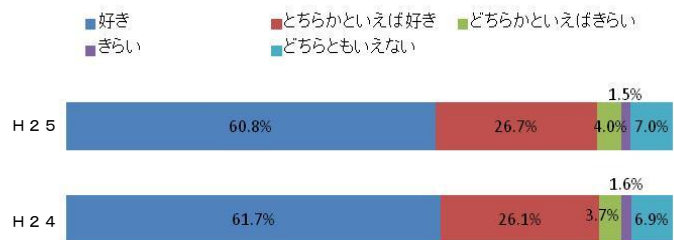
給食がおいしいか



問2 あなたは給食が好きですか。

「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童・生徒が87.5%と、昨年度より0.3%減少したが、中学校では昨年度の80.3%から今年度は82.5%に増加した。このことから、給食の時間を楽しみにしている生徒が増えていると推測される。

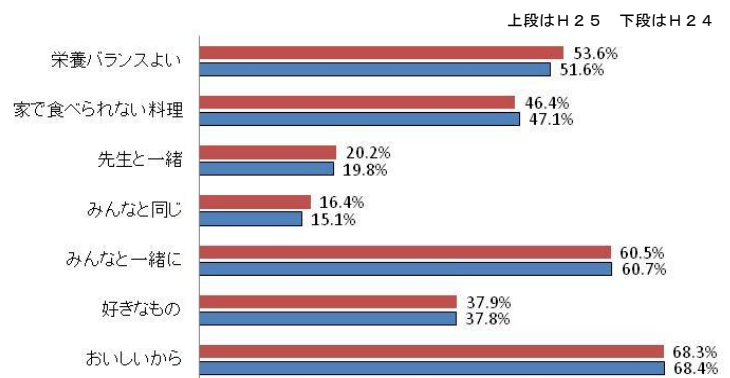
給食が好きですか



問3 好きな理由は何ですか。(問2で、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童・生徒が回答)

「おいしいから」と回答した児童・生徒が68.3%と、昨年度より0.1%減少したものの、「好きなものを食べることができるから」「みんなと同じものを食べることができるから」「先生と一緒に食べることができるから」「栄養のバランスを考えた食事を食べることができるから」と回答した児童・生徒が昨年度より増加した。特に「栄養バランスを考えた食事を食べることができるから」は昨年の51.6%から53.6%に増加している。このことは、給食の時間を中心とした食育効果の表れと推測される。

給食が好きな理由

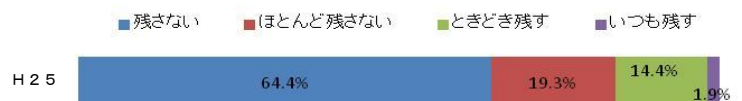


問4 あなたは給食を残すことがありますか。

問5 問4で「ときどき残す」「いつも残す」と答えた児童・生徒は何を残すのか。

「残さない」「ほとんど残さない」と回答した児童・生徒が83.7%であった。また「ときどき残す」「いつも残す」と回答した児童・生徒は、「おかずを残すことがある」が75.2%と最も多く、「主食を残すことがある」は37.9%、「牛乳を残すことがある」が15.6%であった。しかし中学校より小学校で、高学年より低学年で「おかずを残す」割合が高く、「主食を残す」割合はその反対の傾向が見られた。「牛乳を残すことがある」は、特別支援や中学校に多い傾向が見られた。問3の「好きなものを食べることができるから」「栄養バランスを考えた食事を食べることができるから」が増えていることから、嗜好面を考慮した給食の提供とともに、個に応じた給食管理や給食指導が必要である。

給食を残すことがあるか

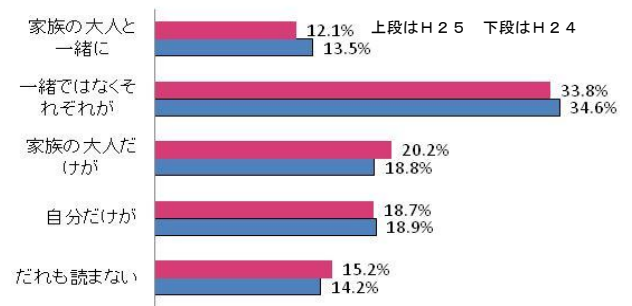


問6 給食だよりや給食献立表はどのように読んでいますか。

「家族の大人と一緒に読む」と回答した児童・生徒が、昨年度の13.5%から12.1%に減少し、「家族の大人だけが読む」が昨年度の18.8%から20.2%に増加した。家庭における食育の充実という観点からも、給食だより等を親子一緒に読むことはよりよい効果につながると推測される。

保護者や子どもが興味・関心を持つような「給食だより」「献立表」を今後作成することが必要である。

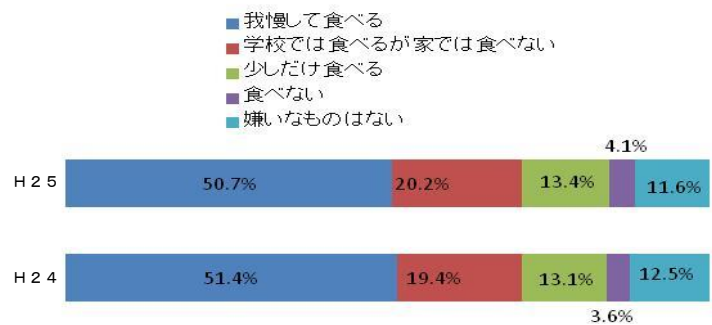
「給食だより」や「献立表」はどのように読むか



問7 食事のときに嫌いなものが出たとき、どうしていますか。

「我慢して食べる」と回答した児童・生徒は、昨年度の51.4%から50.7%に減少し、昨年同様中学生より小学生の割合が高い傾向を示した。「学校では食べるが家では食べない」は、昨年度の19.4%から20.2%に増加した。「食べない」は、昨年度の3.6%から4.1%に増加し、昨年同様小学生より中学生の割合が高い傾向を示した。

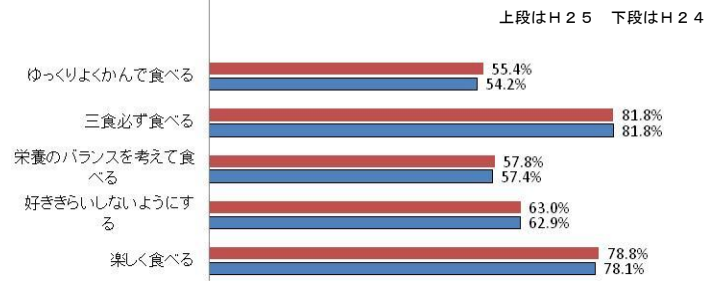
嫌いなものが出たときどうするか



問8 あなたはどのようなことに気をつけて食事をしていますか。

今年度は、すべての項目で気を付けていると回答した児童・生徒の割合が昨年度よりも高かった。特に、小学校では「三食必ず食べる」ことに気を付けている割合が83.1%、中学校では「楽しく食べる」ことに気を付けている割合が84.1%と高かった。このことは、望ましい食習慣の意識の定着の表れとも推測される。

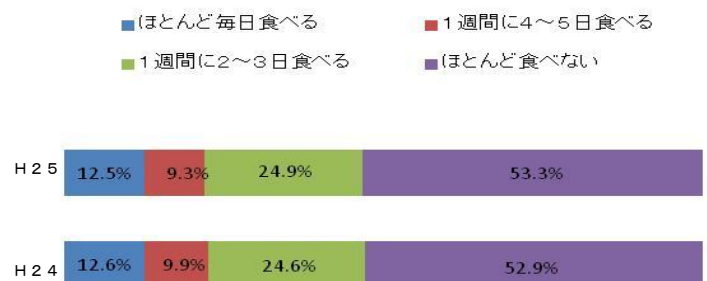
どのような事に気をつけて食事をしているか



問9 夕食を食べたあと、寝るまでの間におやつを食べますか。

「ほとんど食べない」と回答した児童・生徒が昨年度の52.9%から53.3%に増加し、一方、「ほとんど毎日食べる」と回答した児童・生徒は、昨年度の12.6%から12.5%に減少した。全体的に夕食後のおやつを食べる児童生徒の減少傾向が見える。

夕食後おやつを食べるか



問10 家で食事をするとき、「いただきます」

「ごちそうさま」のあいさつをしますか。

「いつもする」と回答した児童・生徒が昨年度の67.8%から67.6%に減少した。「いただきます」「ごちそうさま」など食事のあいさつの意味を知り、感謝の気持ちを込めて日々あいさつができるようにしていくことが大事である。

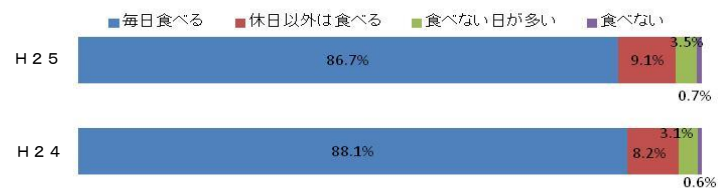
家で「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をするか



問11 あなたは、朝ごはんを食べますか。

「毎日食べる」と回答した児童・生徒が、昨年度は88.1%であったが、今年度は86.7%で2年連続の減少となった。朝食摂取の重要性を児童・生徒に指導していくとともに、家庭・地域へのさらなる啓発が必要である。

朝ごはんを食べますか

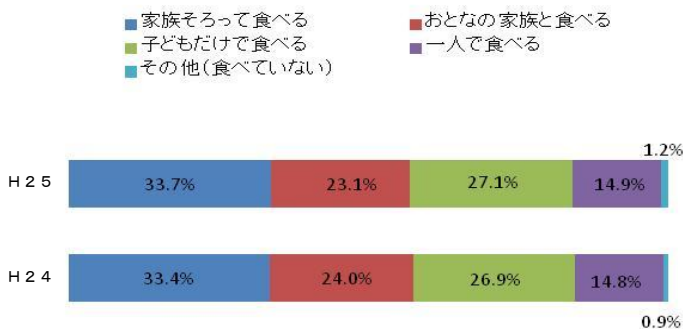


問12 朝ごはんを、だいたいだれと食べますか。

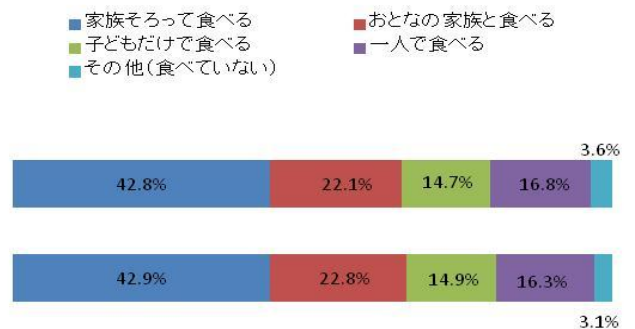
「家族そろって食べる」「おとなの家族と食べる」と回答した児童・生徒が、平日は昨年度57.4%であったが今年度は56.8%、休日は昨年度65.7%であったが今年度は64.9%とともに減少した。

また、「一人で食べる」と回答した児童・生徒が、平日は昨年度14.8%であったが今年度は14.9%、休日は昨年度16.3%であったが今年度は16.8%とともに増加した。家族そろって朝食を食べる家庭が減ってきている傾向が見える。

朝ごはんをだれと食べるか(平日)



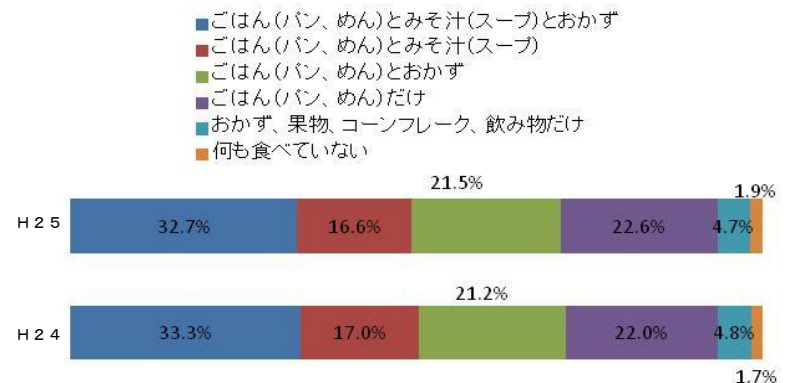
朝ごはんをだれと食べるか(休日)



問13 今日の朝ごはんは何を食べてきましたか。

「ご飯(パン、めんなど)とみそ汁(スープ)とおかず」と回答した児童・生徒が、昨年度は33.3%で今年度は32.7%、「ご飯(パン、めんなど)だけ」が昨年度は22.0%で今年度は22.6%、「ご飯(パン、めんなど)とおかず」が昨年度は21.2%で今年度は21.5%、「ご飯(パン、めんなど)とみそ汁(スープ)」が昨年度は17.0%で今年度は16.6%であった。朝食にみそ汁(スープ)の摂取が減少する傾向が見え、栄養バランスのとれた朝食摂取の重要性について児童・生徒に指導していくとともに、家庭・地域にも啓発していく必要がある。

朝ごはんは何を食べてきたか



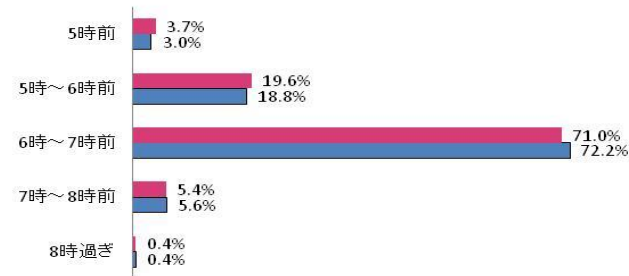
問14 学校がある日の「朝、起きる時間」「夜、寝る時間」は、だいたい何時ごろですか。

「6時から7時前に起きる」と回答した児童・生徒が最も割合が高く、昨年度は72.2%で今年度は70.9%、次いで「5時から6時前に起きる」が昨年度は18.8%で今年度は19.6%あった。

小学校では「午後10時前に寝る」と回答している児童が、昨年度72.0%で今年度は71.3%であった。一方「午後12時過ぎに寝る」と回答していた児童が昨年度1.0%で今年度は1.2%であった。中学校では「午後11時から12時前に寝る」が昨年度36.6%で最も割合が高かったが、今年度は、「午後10時から11時前に寝る」が34.4%で最も割合が高かった。しかし、「午後12時過ぎに寝る」が昨年度18.7%で今年度は21.1%と増加した。全体的には、就寝時刻が遅くなっている傾向が見え、十分な睡眠時間がとれていない児童生徒が増加しているとも推測される。

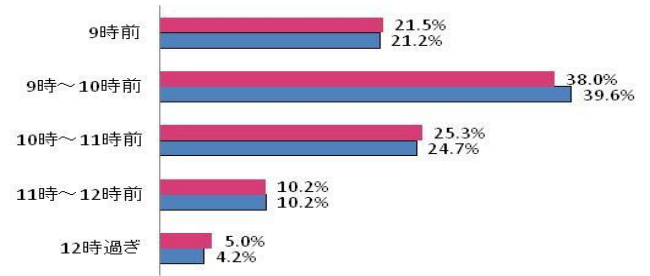
朝起きる時間

上段はH25 下段はH24



夜寝る時間

上段はH25 下段はH24



② 学校対象

問1 「食に関する指導」の全体計画や年間指導計画作成について

全体計画の作成は、昨年度同様すべての学校で作成されている。

しかし、年間計画を作成していない学校が昨年度は13.1%で今年度は11.6%ある。食育を効果的に推進していくためには、年間計画も作成し学校全体での取組として位置付け、関係教職員が連携していくことが必要である。

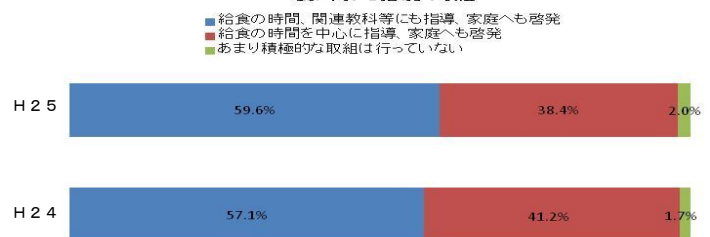
「食に関する指導」の全体計画や年間計画の作成



問2 「食に関する指導」への取組について

食に関する指導にあまり積極的な取組をしていない学校の割合は昨年度が1.7%で今年度は2.0%であった。特に中学校は、昨年度が3.9%で今年度は5.2%となっており、すべての学校で積極的に取り組むことが求められる。

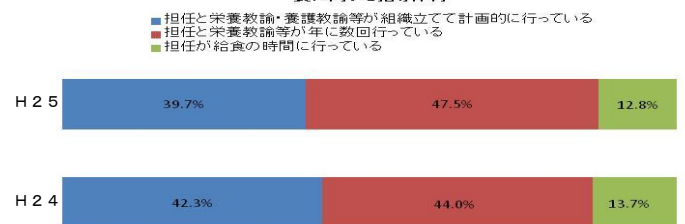
「食に関する指導」の取組



問3 食に関する指導体制について

「担任と栄養教諭・養護教諭等が組織立てて計画的に指導を行っている」「担任と栄養教諭が年に数回指導を行っている」学校は、昨年度の86.3%から今年度は87.2%と増加した。栄養教諭等が、積極的にコーディネートや資料提供を行っていると考えられる。

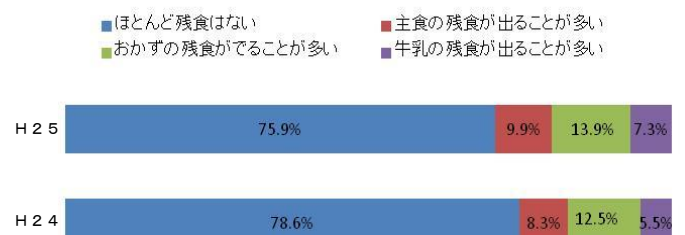
食に関する指導体制



問4 給食の残食について

「ほとんど残食はない」と回答した学校が、昨年度の78.6%から今年度75.9%と減少した。特に小学校が昨年度の85.0%から今年度78.9%と減少が大きく、児童生徒対象のアンケートの問4「給食を残すことがあるか」の結果からも、同様の傾向が伺える。

残食の状況



問5 食に関して個別対応が必要な児童・生徒（食物アレルギー、肥満、痩身等）について

食に関して個別対応が必要な児童・生徒がいる学校は、昨年度の82.7%から今年度84.0%と増加した。食物アレルギーの個別対応では、給食管理において、施設設備・職員の配置状況などを考慮した安全な対応が求められ、児童・生徒の症状の確認や生活状況を把握し、きめ細やかな対応を検討していくことが必須であり、全教職員への周知徹底が重要となる。

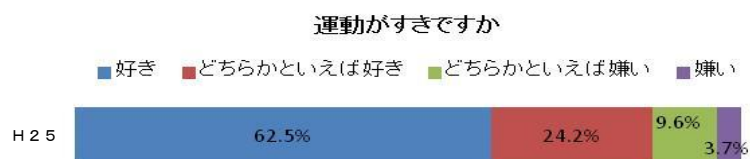
食に関して個別指導が必要な児童生徒



③ その他(運動に関する設問、児童生徒対象)

問15 運動をすることは好きですか。

「好き」「どちらかというとき」と回答している児童・生徒が86.7%であった。中学校よりも小学校、さらに高学年よりも低学年の方がその割合が高い傾向であった。一方「きらい」と回答している児童・生徒が3.7%であった。また、中学校と小学校との差はあまり見られなかった。



問16 学校で休み時間に体育館やグラウンドで遊びたいですか。

「遊びたい」「どちらかというとき遊びたい」と回答している児童・生徒が80.1%であった。中学校よりも小学校、さらに高学年よりも低学年の方がその割合が高い傾向であった。一方「遊びたくない」と回答している児童・生徒が7.0%で、中学校では19.6%、小学校では4.0%と意識に大きな差が見られた。



問17 学校の体育の授業のほかに、運動をしていますか。

「1週間に5日以上運動する」と回答した児童・生徒が昨年度42.8%、今年度は44.1%で最も割合が高く、次いで「1週間に3～4日運動する」が昨年度は25.4%、今年度は24.9%であった。一方「していない」と回答した児童・生徒が、昨年度は9.8%で今年度も同じであった。特に、中学校では昨年同様今年度も24.4%の生徒が「していない」と回答していた。

